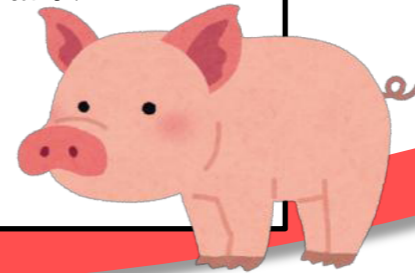


四万十ポークブランド推進クラスター（仮称）

クラスター構成メンバーの連携！

- 窪川養豚協会（中心的経営体5戸）
→ブランドポークの増頭、開発
- 四万十農業協同組合
（クラスター事務局、養豚協会事務局、直販所運営、堆肥センター運営、飼料米活用研究会事務局、WCS研究会事務局）
→生産支援全般、販売促進、加工品開発、地域活性化
- 全国農業協同組合連合会高知県本部
→四万十ポーク米豚等販売促進
- JA西日本くみあい飼料株式会社
→専用飼料の開発、供給
- 株式会社七星食品
→四万十ポーク麦豚、米豚等販売促進
- 高知県
→家畜保健衛生所：生産・衛生指導、畜産環境対策指導、補助事業実施指導、畜産物販売拡大事業推進
→農業改良普及所：飼料米、WCS生産技術指導
- 四万十町
→補助事業実施指導、農地有効活用推進



【現状と課題】
四万十町は県内産豚肉の7割以上を生産（年間出荷30,000頭）する基幹的な養豚地帯。しかし、各農家で徐々に継ぎ足して老朽化した畜舎では、これ以上の生産性向上が見込めない。

【今後の取組】
・規模拡大・移転
・高能力優良種豚の実証及び技術の普及
・環境対応型施設の整備
・6次産業化施設の整備

四万十ポークの生産基盤強化
および加工・販売体制の強化

【担い手育成】
・研修生を受け入れ、担い手を育成
・新規就農希望者に対する支援（離農者の畜舎活用）

指導農業士の資格を活用！

【加工品販売】
・(株)七星食品：ハム、ソーセージ等、町内産豚肉のOEM
・(農)四国デュロックファーム：加工所・直販所OPEN！（H28.4.21予定）
・道の駅あぐり窪川：加工場増設、豚まん生産拡大

デュロックファームは、町内BBQ施設、高知市バル出店で四万十ポークをPR！

【雇用】
・食肉加工販売施設、飲食店の開店等による雇用の創出

販売店・企業
・ブランド豚販売推進
・加工品開発・販売
・エコフィード（未利用資源、廃棄物）提供

地域に広く波及！

肉用牛農家
・WCS利用で飼料コストDOWN！
・WCS給与牛の新たなブランド化！

四万十畜産
ブランド力強化！

耕種農家
・堆肥投入による収穫量UP！
・休耕田等の耕作放棄地の有効利用

飼料米、WCS
生産拡大！

JA四万十
・カントリーエレベータ改修（H28）
・飼料米増産体制に対応

JA堆肥センター
・堆肥増産で堆肥販売額UP！

耕畜連携！

飼料用米・麦・エコフィード給与によるブランド豚の増頭、更なる高品質化及び地域循環型耕畜連携システムの構築による地域収益力向上を実現

実証内容

- ①畜舎の新設・補改修による規模拡大と高能力優良種豚の導入による年間出荷頭数を増頭
(H26実績30,000頭→H32目標34,000頭)→4,000頭増
- ②飼料用米の利活用による飼料コストの低減
(H26実績：10%添加で飼料1kgあたり1円のコストダウン)
- ③増頭に伴う堆肥増産（肥育2,200、繁殖200、計2,400増頭）
(2,400×0.77t(年間糞量/1頭)×0.54(製品率))→1,000t増
- ④堆肥利用による飼料米、WCS作付面積拡大
(飼料米：H26実績37Ha→H32目標60Ha)→23Ha拡大

効果

- ①出荷頭数の増加による産出額の増加
4,000頭×77kg×480円≒148,000,000円
- ②飼料米利用拡大によるコスト低減効果
230×420kg(10a収量)=96,600kg(増収)
96,600kg×100/10(飼料米添加率)×1円(飼料1kg当たりの価格差)
≒1,000,000円

③堆肥販売額の増加
1,000t(増産量)×4,780円(t販売額)≒5,000,000円

④WCS利用による肉用牛農家のコスト低減
290×300kg×7ロール(10a収量)=609,000kg(増収)
(50円(輸入乾草乾物1kg)−25円(WCS乾物1kg))×609,000kg≒15,000,000円

⇒ 地域全体で169百万円以上の経済効果！